

令和5年4月28日

学校だより



5月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 藤本 光子

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

戻ってきた温かい風景

校長 藤本 光子

毎年恒例の、1年生の生活科の学習「がっこうたんけん」が始まりました。お兄さんお姉さんの授業中の様子や先生たちの仕事場を見ようと、わくわくドキドキしながら学校中を歩きます。

校長室にやってきた子たちには、クイズを出しました。

「さて、ここは何のお部屋でしょう。1番、校長先生がお仕事をするとところ。2番、校長先生がお昼寝をするところ。」

どっと笑いが起きて、「1番だ!」「ぼく、この前見たよ。」「校長先生、お昼寝はお家でしてください。」とロ々に話す子どもたち。その様子を見て、かわいくてたまらない気持ちになるのと同時に、マスクの有無や人との距離などを気にせずに、このような会話を気兼ねなく交わすことができるようになったのだなど、しみじみと感じました。

今年度の入学式にご参加いただいたPTA代表の方と、式後にお話をした際に、こんなご感想をいただきました。

「昨年度(ご自分のお子さんの入学式)はみんな表情が硬かったですよね。先生たちもコロナのことがあったからですかね、ぴりぴりしていたように見えました。」

私は少し驚きました。もちろん、昨年度も今年も思いを込めて式をつくったのは同じなのですが、実は、制限が緩和されたことで、今年の方が様々な面で仕事が増えてあわただしかったのです。中でも、今年度から復活した2年生による「歓迎のアトラクション」は、この日のために1年生の頃からたくさんの時間を費やして取り組んできたこともあり、当日も緊張感が高まっていました。しかし、始まってみると、2年生は堂々と、そして生き生きと発表することができ、会場が一気に温かい空気に包まれました。1年生のために一生懸命に発表する姿をご覧になり、涙ぐまれている来賓の方もいらっしゃったほどです。これまで計画・指導してきた担任や職員も、発表後の満足そうな子どもの姿を目にして、自然と表情が和らいだのかもしれない。



今年は、様々な場面で、子どもたちにより多くの体験をさせてあげることができそうです。一方で、教職員の適正な勤務実態や健康維持に向けて「働き方改革」に真剣に取り組まなければならない状況でもあります。2年生の「歓迎のアトラクション」のように、たとえ人手を割き、時間と労力をかけてでも、子どもの笑顔につながることは大切にしたいです。運動会も、半日ではありますが、昨年度に比べて内容をより充実させようと、多くの計画を盛り込みました。子どもたちの笑顔と教職員の笑顔は互いに関連し合い、つながっていることをしっかりと心に留め、今後も温かい教育活動を展開していきたいと思えます。